

バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル No.155

SABS Journal No. 155

発行日：2025年1月17日

URL：[バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル \(sabsnpo.org\)](https://www3.nhk.or.jp/news/html/20250113/k10014692181000.html)

新しい年を迎えました。皆さまお元気でお過ごしのことと思います。昨年の新年は能登半島で大地震が起こったり、波乱な新年でしたが、今年も1月に入って宮崎県で大きな地震がありました。何と昨年夏の大地震の余震と報じられています。どうやら心配されている南海トラフ巨大地震帯と関係があるようです。

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20250113/k10014692181000.html>

昨年は一昨年にも増して酷暑が続いたのですが、12月になると酷く寒くなりました。関東平野、殊に東京エリアでは晴天が続いています。もう何十日も雨が殆ど降らず乾燥しきっていて、火事が頻発、焼死者も増えています。一方日本海側では北朝鮮の白頭山から下ろしてくる寒風が日本海の高温暖水からの水蒸気を冷やし猛烈な吹雪を大量に持ち込みます。いわゆる JPCZ です

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/e3d5ada66dac13e4f6f298127f198b52c2d682ab>

JPCZ (Japan-sea Polar airmass Convergence Zone) は日本海寒帯気団収束帯と訳します：

<https://www.jamstec.go.jp/apl/hotspot2/terms/jpcz.html> JPCZ は日本海沿岸から中央山岳地帯にかけて、南は九州、北は北海道まで平年の3倍もの雪をもたらしています。クマについても昨年はエサの木の実が豊作で春からクマが人里に出て木に登り食べていたりしていましたが、この豪雪の中、どうして居るのでしょうか。

一方世界では山火事が猛威を振るっている地域があります。Los Angeles の郊外では東京23区くらいの面積が既に灰になったとか。高圧線が倒れたとか貯水池に水が空だったとか人災として騒いでいるようですが、鉄塔が倒れるほどの強風とか水が溜まらなかったとか全て異常気象で、地球温暖化です。この気候変動は温室効果ガスの大気中濃度の増加が大きな原因であるのは間違いありません。そしてこれが明らかな人災なのです。この人災は加速度的に進んでいて、前年より平均気温が上がるということが毎年続いています。前号で我が国の環境研が打ち上げた衛星 GOSAT の観測について紹介しました：

<https://www.gosat.nies.go.jp/index.html> それによると CO<sub>2</sub> より遥かに強い温室効果ガス CH<sub>4</sub> が非常に大量に世界各地の油田やガス田から放出されています。メタンガスを放出する油田やガス田は特にアメリカに多いのです。この Antiscience 次期大統領は採掘が盛んな州で多くの票を集めて当選したのです。

間もなく1月20日には大統領就任です。選挙で選ばれた議員ではなく大統領が自由に任命出来るので既に異常な閣僚人事がいろいろと報道されています。今回任命予定の閣僚には随分と怪しい人物ばかりです。一番気になるのは Elon Musk という人物が「政府の無駄を省く」という省庁を新たに作るという話です。Department of Government Efficiency (DOGE)なるこの組織は国家予算の大幅削減をやるそうです。直ぐには役に立

たない基礎研究などの予算は“無駄”の最前線にあります。アメリカ国内だけでなく世界中の基礎科学の研究者に壊滅的な被害が憂慮されます。南アフリカの裕福な家に生まれたこの人物は、南ア、カナダ、米国の三重国籍を持っています。外国生まれなので、今のところトランプ後の次期大統領にはなれない筈ですが、**Mr. Trump** は憲法をも書き換えかねない人物ですから油断できません。世界を見ると昔も今も長く政権に居る人物が憲法を変えて任期を延ばすことで民主政治が独裁政治に変わるのを我々は何度も見て来ました。恐ろしいことです。

大統領就任の日が近づきいろいろな人達がすり寄り始めています。SNS 経営者たちも“規制緩和”で **Trump** 礼讃を容認し始めたりして悪い意味の忖度が目立ち始めてきたようです。

さて「本当の無駄である戦争は相変わらず続いています」と前号に書きましたが、また書かねばなりません。極端に深刻な“人災”である戦争は終わるところか益々深刻化しています。膨大な消費と大量破壊で生ずる温室効果ガスの量はケタ違いです。人類の歴史は残念ながら戦争の歴史でした。人類にとって最も大切な‘人命’がいとも簡単に大量にしかも‘合法的’に失われるのが戦争です。未だ世界では戦乱が収まるどころか益々酷くなっていきます。「平和」とは戦争をしないことです。次期大統領は「戦争は嫌いだ」と言っているとウワサされています。「お金のムダ遣いだから止めろ」ということらしいのですが、理由は何であれ戦争を止めることは素晴らしいことです。今年 **2025** 年は **1945** 年に日本が終戦を迎えてから **80** 年目です。幸い我が国はこの **80** 年他国と戦争をしませんでした。“この誇るべき平和を世界に広げ、地球上どこにも戦乱がない平和な世界が一日も早く来る事を切に祈るばかりです”と前号にも書きましたが何度でも繰り返したいと思っています。人類の歴史は戦争の歴史でした。農業の発達で文明が生まれたのですが、文明同志の戦争も始まり、結果、様々な殺人道具が開発され、遂に核兵器に至ったわけです。そして一発で一国が滅びる究極の兵器が現在世界中に何千発もあるということになってしまいました。”やられたらやり返す“というのが戦争です。ここで核兵器が使われるとどうなるか。使われてからでは遅いのです。核融合による水素爆弾は広島長崎の核分裂爆弾の数千倍の威力です。たった一発で日本程度の小さい国々は滅亡します。現存の核兵器は地球上の全生物を何回も死滅させる能力があります。

医学とバイオの話題いくつか:

1. 肺炎が流行して居ます。 コロナもまだ完全には収まっていません。一方インフルエンザは非常に増加していて学級封鎖も小学校や中学では頻繁なようです。相変わらず人混みではマスクが必要だし手洗いも大切です。 [001372589.pdf \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/001372589.pdf)
2. PRP 療法 。患者の血液を遠心分離して血小板を濃縮した血漿を多血小板血漿 PRP (Platelet-rich plasma) といい、再生医療の一種です。既にスポーツ選手などで 10 年以上前から普及していて大谷翔平選手もやったと報じられています。キットも

市販され二段階遠心と特殊な遠心チューブを使う方法です。いまのところ保険適応されていないので十万円以上の医療費が掛かりますが将来的には保険も適用されそうです。<https://www.kitasato-u.ac.jp/hokken-hp/visitor/section/soc/regeneration/>

3. ヒトにおける高病原性鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルス感染。この報告によると 46 人の感染のうち 25 人はニワトリ、20 人はウシに接触、残り 1 人はこれらの家畜に全く接触していない。この 1 人が感染したヒトから感染したのかどうか疑問としてのこるとのこと。いまのところ感染したヒトは結膜炎の症状が出ているが重症ではなく死亡者も居ないとのこと [PubMedCLOUD \(carenet.com\)](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/)

前回の定例会は忘年会も兼ねテーマを決めず、出席者全員の近況報告を中心に自由討論という形でした。様々な話題が出ました。パソコンの具合が悪くなり、買った店に行ったら、新しいのを買うことを薦められたというお話に始まり、かなりの方々が中古を購入していることが分かり、筆者のようにこの 10 年近く中古しか買っていない人や、特に年齢のこともあり、「中古がいいよ」と言う声が大半でした。次に“ガラ携”を最近スマホに切り換えた人のお話では販売店の人が不親切で怒った話。筆者が切り換えたのは数年前ですが未だ店に行って教わる始末。どうも我々高齢者と若い人たちの使い方は全く違うようで、いわゆる“アプリ”なるものの使う種類が全く異なるので話が通じなくて「不親切」となるようです。

そして体調のお話。散歩。ボケ防止に良い麻雀。武野さんは国立昭和記念公園で開かれた「花とみどり・いのちと心」展で話をされたこと。松下さんは意識の問題、進化について、そして尊厳死の話など哲学的・宗教的なお話や、戦時下のペニシリン開発について松本さんが新しく見つけた資料の紹介もあり、どの話題も議論が盛り上がりました。

立教大学理学部出身の小林英三郎氏はアメリカから寄贈された原子炉の話をされました。話は御自身が撮られた運転中の原子炉の写真に始まりました。毎号筆者は「原子力の平和利用はあり得ない」などと主張していて、会員の多数の共感を得ているので、非常に興味深いお話でした。話は戦後 10 年目の 1955 年に遡ります。立教大学(St Paul University)は戦前米国聖公会(Anglican Episcopal Church)によって創立されたのですが、1955 年に本国の聖公会が平和利用のための原子炉を日本に寄贈するという決定したそうです。その後いろいろな経緯がありましたが、結局場所は横須賀市武山に建設することに決まりました。1959 年に学長や聖公会牧師らの儀式を経て鋳入れ、建設が始まり、そして 1961 年秋には、アメリカから運ばれた燃料棒 62 本が挿入され臨界に達し、熱出力 100Kw の原子炉(TRIGA II 型)は運転を開始したのです。なお 2001 年には運転を停止し現在は廃炉準備中とのことです。

さて次回の定例会も再び自由討論にしたいと考えています。話題は特に定めません。USB をお持ち頂き話題提供して頂けると幸いです。どんな短いお話でも結構です。よろしくお願ひいたします。

当会の発行する「医学と生物学」はエッセイと総説も掲載しています。戦時下ペニシリン開発の偉業については化学史家でもある松本邦男氏が新たに発見された資料をもとに3部に渡る詳細な論文を書いて居られます。既に第2部までは専門誌に投稿されました。筆者は英文要旨のお手伝いしたのですが、外国人向けに詳細な人名などを省略した短い英文版のお手伝いを申し出ました。そしてこれを「医学と生物学」誌に掲載出来ればと考えています。

これまで定例会では他にも興味深い総説の発表が多数ありました。これらの内容を著者の方々が和文要旨として纏めて頂ければ「医学と生物学」誌に掲載したいと思っています。そしてそれらは英文化して掲載することでこのインターネットジャーナルの「国際化」を誇りたいと思っています。皆さまのご協力をお願いする次第です。

### バイオテクノロジー標準化支援協会(SABS)第128回 定例会のお知らせ

日時：2025年1月25日(土) 13時～17時

場所：八雲クラブ(東京都立大学同窓会) 渋谷区宇田川町12-3 ニュー渋谷コーポラス10階

話題：新年会、近況報告と自由討論など

定例会会場八雲クラブへの道順：

渋谷駅北口交差点から井の頭通りの坂道の右側を東急ハンズの看板を目指して上ります。ハンズの手前で右手の急坂を登り、坂の途中でパルク高層ビルを右に見ながら左に曲がりまた少し坂道を行きます。ほぼ登り切った所で左側に建つ古い高層マンションがニュー渋谷コーポラスです。入口の階段を降りたところでエレベーターに乗り10階で降りると直ぐ左隣の部屋が八雲クラブです。

定例会は、原則として毎月第4土曜日に開催しています。7月と8月と11月はお休みです。

なお会場の都合で第4土曜日ではなく他の土曜日となることがありますがその場合には予めお知らせします。11月はお休みです。そして12月の会は第1土曜日を原則としています。前回は会場の都合で第3土曜日の12月21日となりましたが、今回は第4土曜日2025年1月25日です。

バイオテクノロジー標準化支援協会(SABS)は、故奥山典生先生(東京都立大学名誉教授)によって2007年に創立され、SABSジャーナル第1号はその年の10月11日に発行されました<http://sabsnpo.org/journal001.pdf> 以来、奥山先生は2015年の第73号(5月17日発行)まで執筆されて居られました。先生はそのわずか2日後の5月19日、訪問先で倒れられ、救急搬送入院、6月13日にはご逝去されてしまいました。混乱の中、当時の理事たちで今後について話し合った結果、その年の6月19日には何とか第74号をまとめることが出来ました。以後、本ジャーナルは引き続き定期的に発行され、今回は第154号となります。SABSジャーナルでは、奥山先生が様々な分野にわたる蘊蓄を毎号ご披露されて居られました。先生には全く及ぶべくもありませんが、現在は蘊蓄もどきの話題を筆者(檜山哲夫)が書いています。ぜひ読者の皆様からも蘊蓄

などのご投稿をお待ちしています [thiyama@athena.ocn.ne.jp](mailto:thiyama@athena.ocn.ne.jp)。

当協会のもう一つの大きなプロジェクトはインターネットジャーナル「医学と生物学」の発行です。緒方富雄博士が1942年に創刊した総合学術雑誌ですが、2013年に休刊となりました。それ以来、奥山先生はこの雑誌の復刊に努力されて居られました。しかし残念ながらご存命中には実現は出来ませんでした。我々後継者は川崎博史理事を中心に努力し2018年にインターネットジャーナルとして復刊することが出来ました。下記ウェブで御覧になれます：

<https://medbiol.sabsnpo.org/EJ3/index.php/MedBiol/issue/view/52>

最新号は昨年11月22日発行の164 (No4) です：[164 卷 4 号 \(2024\) | 医学と生物学 \(Medicine and Biology\) \(sabsnpo.org\)](#)

また創刊号からのバックナンバーも収録しており、下記ウェブで閲覧出来ます：

<https://medbiol.sabsnpo.org/EJ3/index.php/MedBiol/issue/archive>

このSABSジャーナルはバイオテクノロジー標準化支援協会(SABS)会員だけではなく、広い意味でのバイオテクノロジー関係の方々にも配信しています。現在、このジャーナルを読んで下さる方々は600名近く居られます。殆どの方が奥山先生の関係で、先生の広がった人脈に改めて驚いています。ぜひ読者の方々からも話題提供をして下さる方をお待ちしています。当SABSジャーナルのホームページ [https://sabs.sabsnpo.org/sabs\\_j/](https://sabs.sabsnpo.org/sabs_j/) ではジャーナルの最新号を含めたバックナンバーが収録してあります。またお知り合いの方でこのジャーナルを配信希望の方が居られましたら会員である必要はありませんので筆者のアドレス [thiyama@athena.ocn.ne.jp](mailto:thiyama@athena.ocn.ne.jp) に直接お知らせください。また配信停止、新規会員登録、アドレス等の登録情報変更等のご希望やウェブサイトに關するご意見もメールでお寄せください。

## 特定非営利活動法人バイオテクノロジー標準化支援協会

NPO Supporting Association for Biotechnology Standardization (SABS)

〒173-0005 東京都板橋区仲宿 44-2 URL: <http://sabsnpo.org>

理事：荒尾 進介、小林 英三郎、田坂 勝芳、松坂 菊生、小川 哲朗、川崎 博史、檜山 哲夫

監事：堀江 肇

ネット管理：川崎 博史、田中 雅樹